

報道関係者各位

2023.3
 福田美術館
 嵯峨嵐山文華館

「橋本関雪生誕140周年 KANSETSU ー入神の技・非凡の画ー」

白沙村莊 橋本関雪記念館と3館共同で開催



戦後の日本画の巨匠・橋本関雪（1883～1945）は、近世の伝統を受け継ぎながら近代性を取り入れて、独自の文雅で壮大な芸術世界を完成させました。本展は関雪の生誕140周年を記念し、京都の東と西、白沙村莊 橋本関雪記念館と嵐山の福田美術館・嵯峨嵐山文華館が3館共同で開催する特別な展覧会となります。

会期：2023年4月19日（水）～ 同年7月3日（月）まで

●東山会場：白沙村莊 橋本関雪記念館 ★休館日…5月31日（水）

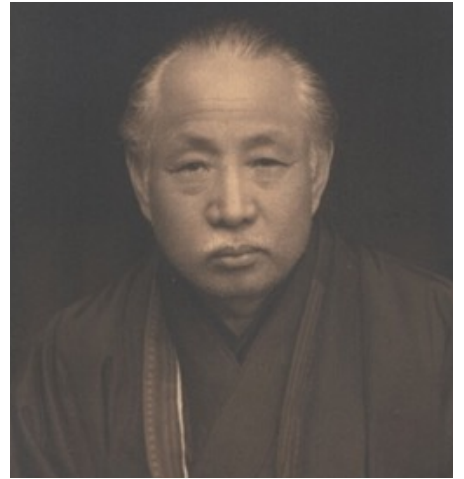
前期展示…4月19日（水）－5月30日（火）／後期展示…6月1日（木）－7月3日（月）

●嵐山会場：第1会場／福田美術館 第2会場／嵯峨嵐山文華館 ★休館日…5月30日（火）

前期展示…4月19日（水）－5月29日（月）／後期展示…5月31日（水）－7月3日（月）

橋本関雪生誕140周年を記念した、京都で初の大規模回顧展

橋本関雪（1883-1945）は大正・昭和期の京都画壇で活躍した画家です。神戸に生まれた関雪は、儒者の父・海関の薫陶を受けて漢籍詩文を学び、同時に画笔にも親しみました。四条派の画法を修めた闊達な筆さばきと、中国の古典への深い理解と愛着を持つ彼は、早熟な才能を示し、若くして画名を知られます。本展は関雪の生誕140周年を記念し、関雪が生涯で最も長い時間を過ごした京都で、その歩みと到達点を名画で追い、多角的に紹介するものです。



《木蘭》（部分）白沙村荘 橋本関雪記念館蔵 福田美術館展示（通期）

歴史画から新南画、動物画まで。

82年ぶりに公開の作品を含む珠玉の関雪ラインナップを一挙公開！

数十回に及んだ中国・欧州への旅の経験、旺盛な蒐集の意欲などをも自らの力に変えて前進を続けた関雪は、和漢の故事に材を取った歴史画から、詩書画一致をめざした山水や風景、生彩にあふれた花鳥画、鮮麗な美人画など、他の多くの画家のように一つのジャンルには留まらず、縦横に筆を揮って戦前の京都画壇を代表する存在となりました。（次ページに続く）



《後醍醐帝》（部分）福田美術館蔵 同館前期展示／白沙村荘 橋本関雪記念館後期展示



左：白沙村莊 橋本関雪記念館の庭からの風景 右：《南国》右隻 姫路市立美術館蔵 白沙村莊 橋本関雪記念館後期展示

白沙村莊 橋本関雪記念館では関雪自邸の建物や庭園とともに、《玄猿》（東京藝術大学大学美術館蔵・後期展示）、《南国》（姫路市立美術館蔵・後期展示）や《樹上孔雀図》（足立美術館蔵・前期展示）など、代表作の数々を前期・後期に分けて計43点を公開。



左：《俊翼》福田美術館蔵 同館前期展示／白沙村莊 橋本関雪記念館後期展示
右：《狩》（部分）白沙村莊 橋本関雪記念館蔵 福田美術館展示（通期）

嵐山第1会場となる福田美術館では、82年ぶりに公開される《俊翼》（福田美術館蔵・前期展示）をはじめ《木蘭》（白沙村莊 橋本関雪記念館蔵・通期展示）、《後醍醐帝》（福田美術館蔵・後期展示）など文展出品の名作が並びます。

第2会場の嵯峨嵐山文華館においては文人画に傾倒した関雪の新南画とよばれる新境地に至るまでの作品を主軸に、白沙村莊 橋本関雪記念館所蔵の屏風作品《閑適》（通期）や12幅対の《人物山水十二題》（後期）など43点を公開いたします。



《閑適》（部分）白沙村莊 橋本関雪記念館蔵 嵯峨嵐山文華館展示（通期）

展覧会概要

- 企画展名 「橋本関雪生誕140年 KANSETSU ー入神の技・非凡の画ー」
- 会 期 2023年4月19日（水）～7月3日（月）
- 東山会場：白沙村莊 橋本関雪記念館
10:00～17:00（最終入館は16:30まで）
〈前期〉4月19日～5月30日／〈後期〉6月1日～7月3日
- 嵐山会場：第1会場／福田美術館 第2会場／嵯峨嵐山文華館
10:00～17:00（最終入館は16:30まで）
〈前期〉4月19日～5月29日／〈後期〉5月31日～7月3日
- 休 館 ● 白沙村莊 橋本関雪記念館→5月31日（水）
○ 福田美術館・嵯峨嵐山文華館→5月30日（火）
- 主 催 白沙村莊 橋本関雪記念館 福田美術館 嵯峨嵐山文華館 京都新聞
- 後 援 京都府 京都市教育委員会 京都商工会議所
- アクセス ● 東山会場：白沙村莊 橋本関雪記念館
〒606-8406 京都市左京区浄土寺石橋町37
市バス「銀閣寺道」下車徒歩1分
- 嵐山会場：第1会場／福田美術館
〒616-8385 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16
JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩12分
阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩11分
嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩4分
- 嵐山会場：第2会場／嵯峨嵐山文華館
〒616-8385 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11
JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩14分
阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩13分
嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩5分

■ 料 金

東山会場、嵐山会場それぞれの半券提示で団体料金に割引

	一般	大学生	高校生	小・中学生	その他
白沙村莊 橋本関雪記念館	¥1,500	¥700	無料	無料	*大学生以上～学生証をお持ちの方すべてに適用 *入館料に美術館と庭園見学の両方を含む *同伴者付きの場合のみ未就学児見学可能
福田美術館	¥1,500 (¥1,400)	¥1,500 (¥1,400)	¥900 (¥800)	¥500 (¥400)	*障がい者と介添人1名まで各¥900(¥800) *幼児無料 *()内は20名以上の団体料金
嵯峨嵐山文華館	¥1,000 (¥900)	¥1,000 (¥900)	¥600 (¥500)	¥400 (¥350)	*障がい者と介添人1名まで各¥600(¥500) *幼児無料 *()内は20名以上の団体料金
二館共通券 (福美・文華館)	¥2,300	¥2,300	¥1,300	¥750	*障がい者と介添人1名まで各¥1,300

お問い合わせ

当プレスリリースは3館共催の展覧会情報となりますが、ご取材にあたり、白沙村荘
橋本関雪記念館様に関するご質問や確認対応は、白沙村荘
橋本関雪記念館に直接お問い合わせください。

プレスリリース／広報用画像／ご取材に関するお問合せ

福田美術館／嵯峨嵐山文華館 広報事務局（共同ピーアール内）

担当：田中、樋口

TEL：03-6264-2045

Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp

一般の方からのお問合せ

■ 福田美術館について

TEL：075-863-0606（代表）

Email：info@fukuda-art-museum.jp

■ 嵯峨嵐山文華館について

TEL：075-882-1111（嵯峨嵐山文華館事務局）

お問い合わせフォーム：<https://www.samac.jp/contact>

■ 白沙村荘 橋本関雪記念館について

TEL：075-751-0446（代表）

Email：info@hakusasonso.jp

■ 企画担当

白沙村荘 橋本関雪記念館（代表理事）橋本眞次
福田美術館（学芸課長）岡田秀之
嵯峨嵐山文華館（学芸員）阿部亜紀
福田美術館／嵯峨嵐山文華館（広報）中島真帆

プレス用画像（福田美術館展示_1）

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/kansetsu2023/>

※白沙村荘 橋本関雪記念館の展示作品については、白沙村荘 橋本関雪記念館まで直接お問い合わせ願います

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



01_橋本関雪《木蘭》六曲一双屏風_白沙村荘 橋本関雪記念館蔵（通期展示）



02_橋本関雪《後醍醐帝》六曲一双屏風_福田美術館蔵（前期展示／白沙村荘 橋本関雪記念館にて後期展示）



03_橋本関雪《獵》六曲一双屏風_白沙村荘 橋本関雪記念館蔵（通期展示）



04_橋本関雪《琵琶行》六曲一双屏風_白沙村荘 橋本関雪記念館蔵（前期展示）

プレス用画像（福田美術館展示_2）

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/kansetsu2023/>

※白沙村荘 橋本関雪記念館の展示作品については、白沙村荘 橋本関雪記念館まで直接お問い合わせ願います

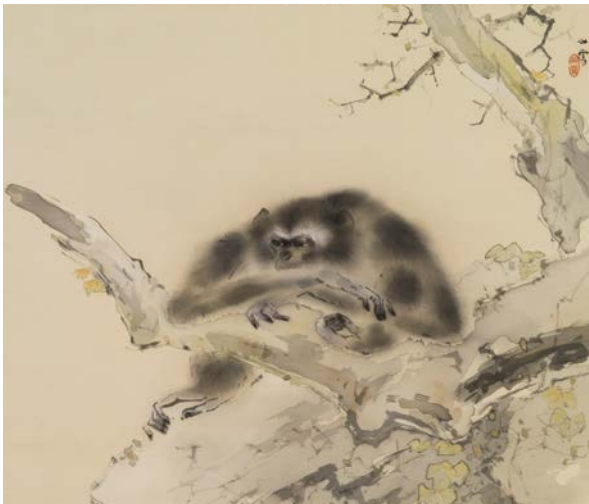
※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



05_橋本関雪《俊翼》軸装・絹本彩色
福田美術館蔵（前期展示／白沙村荘 橋本関雪記念館にて
後期展示）



06_橋本関雪《麗日図》軸装・絹本彩色
福田美術館蔵（通期展示）



07_橋本関雪《睡猿》軸装・絹本彩色
福田美術館蔵（前期展示）



08_橋本関雪
《梅花放鶴図》
軸装・絹本着色
福田美術館蔵（後期展示）



09_橋本関雪《防空壕》
額装・絹本着色
東京国立近代美術館蔵
福田美術館蔵（後期展示）

プレス用画像（嵯峨嵐山文華館展示）

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/kansetsu2023/>

※白沙村荘 橋本関雪記念館の展示作品については、白沙村荘 橋本関雪記念館まで直接お問い合わせ願います

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



10_橋本関雪《閑適》六曲一双屏風_白沙村荘 橋本関雪記念館蔵（通期展示）

11～16_橋本関雪《人物山水十二題》軸装・十二幅対_白沙村荘 橋本関雪記念館蔵（後期展示）



11_橋本関雪
《人物山水十二題》
榴下公子図



14_橋本関雪
《人物山水十二題》
松林翠嵐図



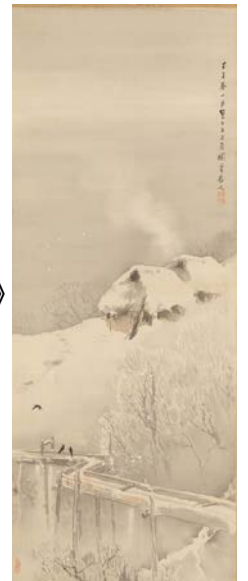
12_橋本関雪
《人物山水十二題》
霜林樵父図



15_橋本関雪
《人物山水十二題》
江上遇雨図



13_橋本関雪
《人物山水十二題》
清暑試茶図



16_橋本関雪
《人物山水十二題》
田家暮雪図

福田美術館について

美しい自然と日本美術の融和。日本文化の新たな発信拠点として

京都・嵯峨嵐山は古来歌枕でもある場所で、多くの貴族や文化人に愛され芸術家たちが優れた作品を生み出す源泉となってきました。福田美術館は「100年続く美術館」をコンセプトに、現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へとつなぐ美術館を目指します。

オーナーである福田吉孝は京都に生まれ育ち、そこで事業を興し、今日まで続けてきたことに対し、地元の方々のご支援とこの地に恩返しをしたいという思いから、2019年10月、美術館の設立に至りました。今や日本国内だけでなく、世界中から多くの人々が訪れる観光地である嵐山。その中でも渡月橋を望む大堰川（桂川）沿いの景勝地に位置し、四季折々でそれぞれに変化する風景は1000年変わらず人々を魅了してきました。この美しい自然とともに日本美術の名品を愉しんでいただくことで、嵐山が世界有数の文化発信地となることを願います。



嵐山にふさわしい、未来へむけた日本建築の形

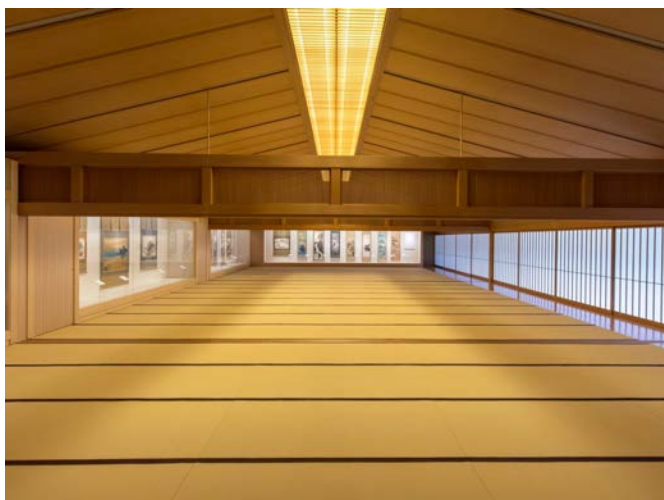
福田美術館の建築を手掛けた安田幸一氏は、「蔵」をイメージした展示室や外の自然とのつながりを感じられる「縁側」のような廊下など、伝統的な京町家のエッセンスを踏まえつつ、これから100年のスタンダードとなるような新しい日本建築を目指しました。また、庭には大堰川に連なる水鏡のごとく嵐山を映し出す水盤が設けられており、渡月橋が最も美しく一望できるカフェからは最高の眺めを味わうことができます。



嵯峨嵐山文華館について

百人一首の歴史と日本画の粋を伝えるミュージアム

1000年以上も前から歌枕として詠まれ、愛されてきた嵯峨嵐山の風景。当館はこの地で誕生したと伝えられる百人一首の歴史やその魅力と、日本画の粋を伝えるミュージアムです。石段を上がり、冠木門をくぐって足を踏み入ると、春はしだれ桜、初夏はサツキツツジ、秋は紅葉、冬は冠雪と、四季の美しさを楽しめる石庭。百人一首ゆかりの小倉山を背にし、大堰川を借景として取り込む2階からの眺めは、まさに日本画の世界のようです。



1階の常設展示では100体の歌仙人形（フィギュア）と歌の英訳が並び、藤原定家によって百人一首が撰ばれた時から昨今人気の競技かるたに至るまでの変遷をご紹介します。

また120畳の広々とした2階の畳ギャラリーでは、じっくり座って自由に鑑賞することも可能。石庭を望む明るいテラスにはカフェスペースが設けられており、景色を楽しみながらお寛ぎいただけます。

